

## (2) 巣鴨さんくちゅあり：KAMO Z

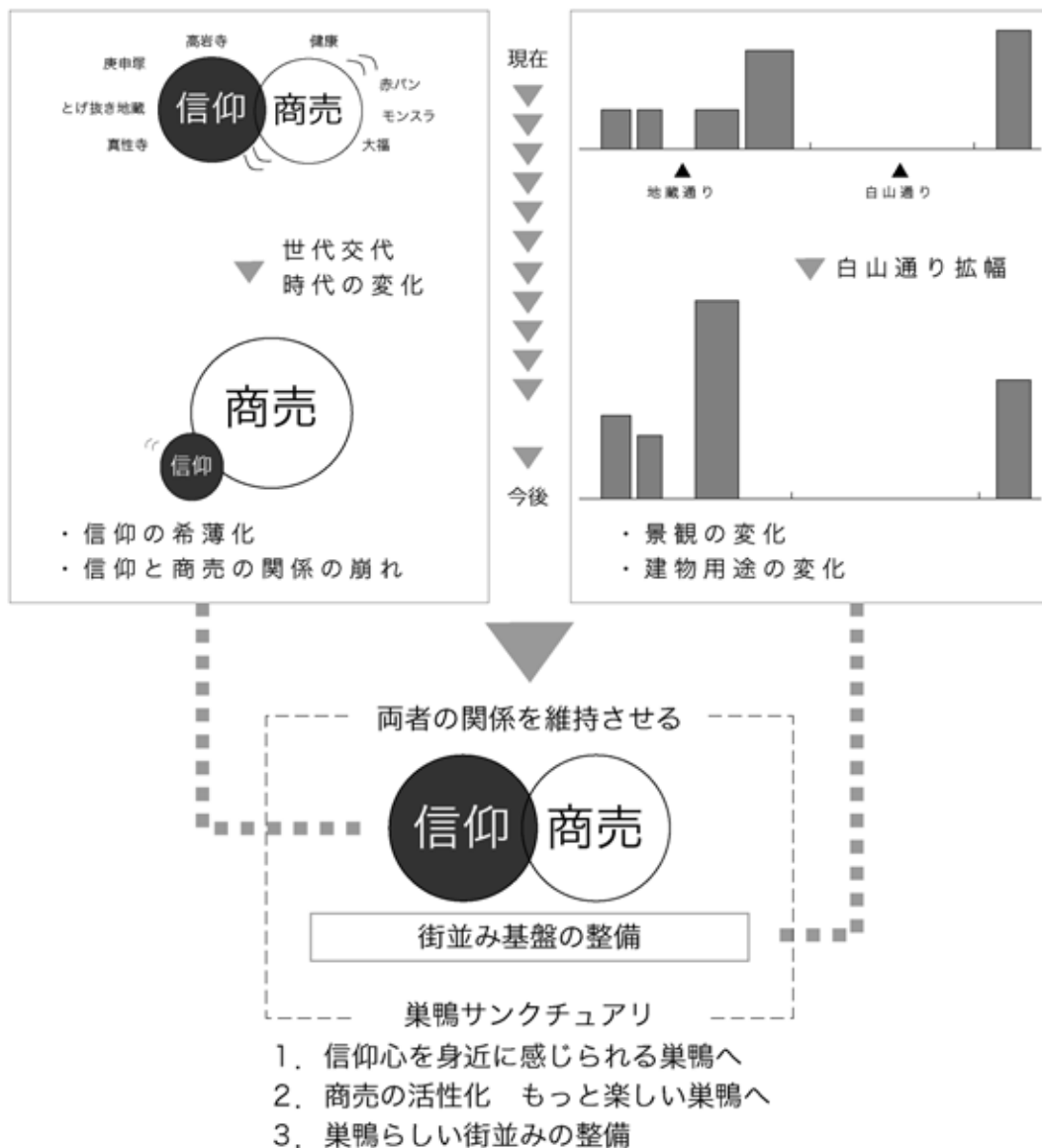
サンクチュアリとは 神聖な場所、領域、安らぎの場所という意味がある。  
(Sanctuary) KAMO' zでは巣鴨地藏通り及び周辺区域が信仰と商売におけるサンクチュアリとなることを提案する。

### 巣鴨地藏通り商店街のこれから・・・

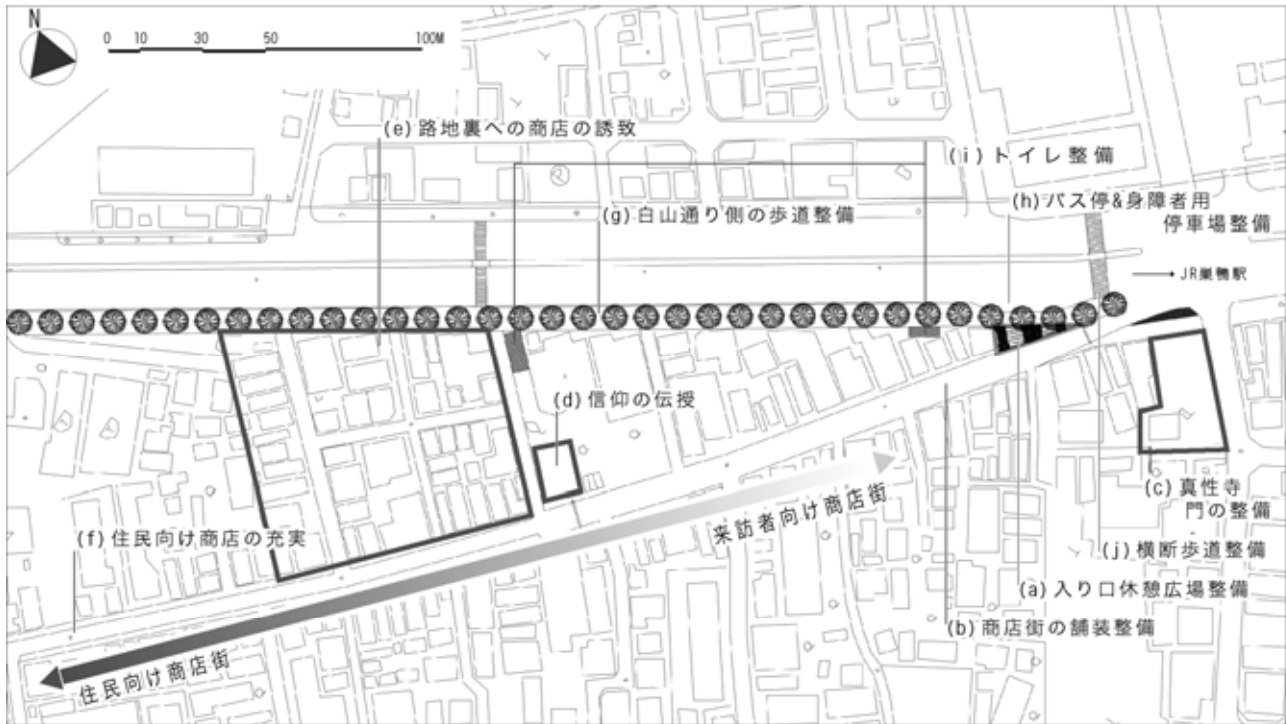
巣鴨地藏通りは旧中山道の街道沿いに高岩寺の「とげ抜き地藏」と真性寺の「江戸六地藏」、そして庚申塚の信仰のもとに栄えたまちである。

現在、巣鴨地藏通りは商店街と高岩寺の両者がともに支え合うことで、多くの住民や、来訪者が訪れる「おばあちゃんの原宿」として親しまれている。この「信仰」と「商売」のバランスは巣鴨ならではの要素であるといえる。

しかし、将来において、時代の変化や世代交代により信仰の希薄化が生じ、この両者の関係が崩れることが懸念される。また、白山通りの拡幅では街の景観が大きく変わることが予想され、信仰と商売を衰退させないために街並みの基盤整備が必要である。



## 計画位置図



## 1. 信仰心を身近に感じられる街へ

### ■ 信仰の場所として整備

巣鴨地藏通り商店街は信仰を基に栄えてきた。しかしながら、今後時代の変化や世代交代により信仰心の希薄化が起これると予想される。巣鴨地藏通りが信仰を基に成り立っていることを確固たるものにするため、商店街及び、その周辺を信仰心が感じられるような空間とする。



□広場付近から見る商店街イメージ

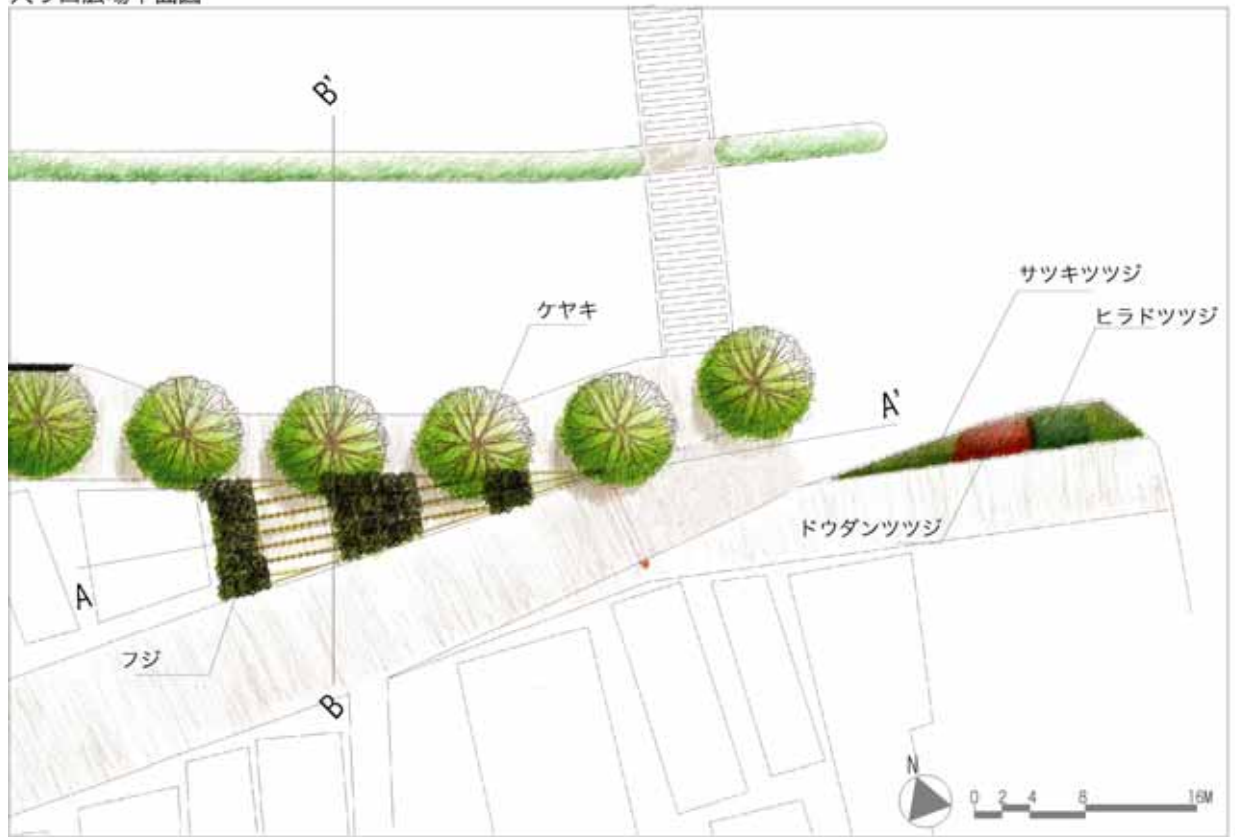
#### 1-a) 入り口休憩広場整備

来訪者が最も多い巣鴨駅側の入り口に手洗い場を設ける。高岩寺の存在を示し、門前町内に入る自覚を促す。また、水景としても休憩所で休む人に涼しさを演出する。

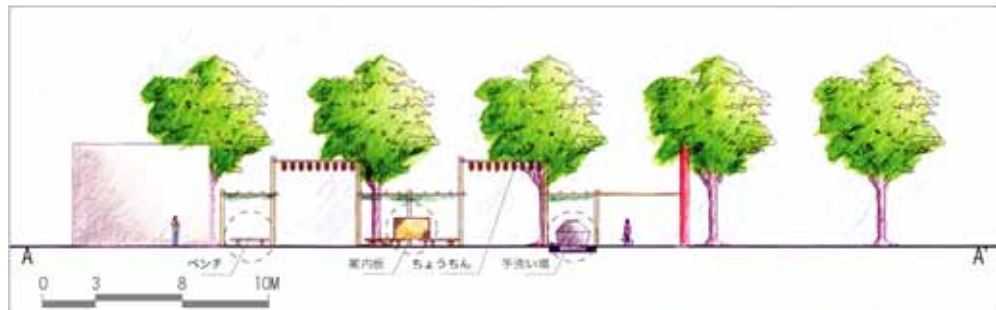
また、バスや駅からの来訪者のために広めの休憩広場を入りに設置する。緑陰として藤棚を設け、その下にベンチをおくことでゆっくりと滞在でき、おしゃべりができるようにする。

さらに、その中に案内板を置き、商店街の情報や地図を載せて、来訪者にわかりやすいようにする。

入り口広場平面図



入り口広場断面図



□手洗い場イメージ

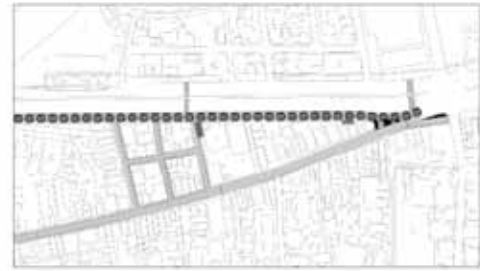


□石畳イメージ

### 1-b) 商店街の舗装整備

門前町としてまちの一体感をはかるために、地藏通り、高岩寺北側商店街、白山通り側の舗装を石畳に統一する。また、段差を解消することでお年寄りが安心して訪れる商店街をめざす。

舗装整備範囲図



□真性寺イメージ

### 1-c) 真性寺、門の移設

真性寺は、元来中山道を旅する人の安全を祈願するために建立されたものである。しかし現在は南側に門があり、来訪者が多く通る地藏通り側から目立たない。そのため、地藏通り側に門を配置することで、通りを歩く人に真性寺、六地藏の存在感を出す。

### 1-d) 信仰の伝授

信仰を人々へ広めるために、現在高岩寺にある高岩寺とげぬき生活館を、信仰を伝える場所「巣鴨信仰館」として利用する。

## 2. 商売の活性化 もっと楽しい巣鴨へ

### ■回遊性の創出

信仰と商業の密接な関係は巣鴨の大きな特徴である。しかし現在、高岩寺をすぎると通りを引き返してしまう来訪者が多いことをふまえ、高岩寺の北側のエリア(図参照)に新たに商店を誘致し、休憩所を充実させる。そうすることで、地藏通り入り口から「買い物-お参り-買い物-休憩」という一連の動きを生み出し、来訪客を回遊させることで、長時間滞在を可能とし、消費活動を促す。

回遊性の創出図



□裏路地イメージ

#### 2-e) 路地裏への商店の誘致

甘味処、衣料品店、ギャラリー(趣味を発表する場)、健康になれる店(ヨガ教室、健康器具店、シニア向けのスポーツジム、健康食品食堂)などの店舗を新たに誘致する。そして地藏通りの雰囲気をも内部まで引き延ばし、来訪者の回遊を促す。

#### 2-f) 住民向け商店の充実

来訪者の多くは高岩寺付近で引き返してしまうため、高岩寺から距離が離れるほど、人が少なくなり空き店舗が比較的に目立つ。商店街全体のにぎわいを取りもどすためにも、空き店舗を中心に住民の買い物が済ませられるように、住民向けに生鮮食品店をはじめとした商店を誘致していく。健康をテーマとした有機食品店や豊島市場の出張店舗などをおき、店主と住民との信頼から成り立つ住民向け「おもてなし」商店街を形成する。

### 3. 巢鴨らしい街並み整備

#### ■ 白山通り拡幅による影響

白山通り拡幅によって、建築物が高層化し、巢鴨独特の景観が壊れてしまう可能性がある。また、巢鴨にふさわしくない用途の建物が建つ恐れもある。それらを防ぐために、高さや外観を規制すること、建築の用途を制限することなどが必要である。それらを規制、制限し、商業とそれを支える周辺の住宅を保護する。

#### ■ 安心して歩けるまちづくり

人々が安心して歩くことができるまちづくりの基盤整備を提案する。



□ 白山通り歩道イメージ

#### 2-g) 白山通り側の歩道整備

白山通り側の店舗にはカフェなどを誘致し、前面の歩道は道路拡幅により8m確保されるため、歩行者が安心して歩けるような歩行者専用道と自転車道とに分ける。<sup>※</sup>

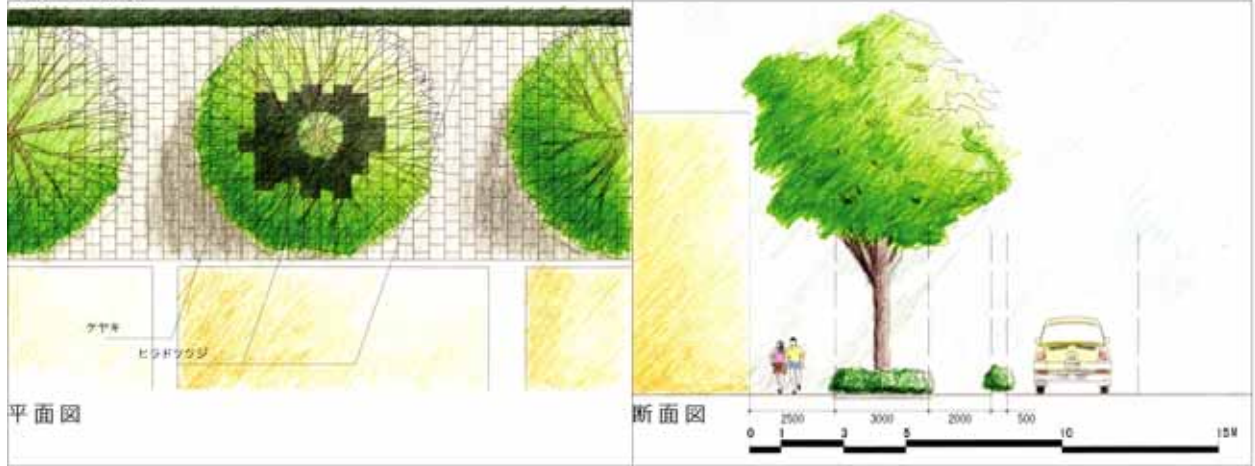
中間地帯には、緑地帯のほか、買い物や寺回りで疲れたお客が休めるように休憩区域としてベンチ、喫茶店(オープンカフェなど)を整備する。さらに、高岩寺前においては、その存在を示すために植栽パターン<sup>※</sup>を変える。

※ 歩道の用途と植栽パターンについて

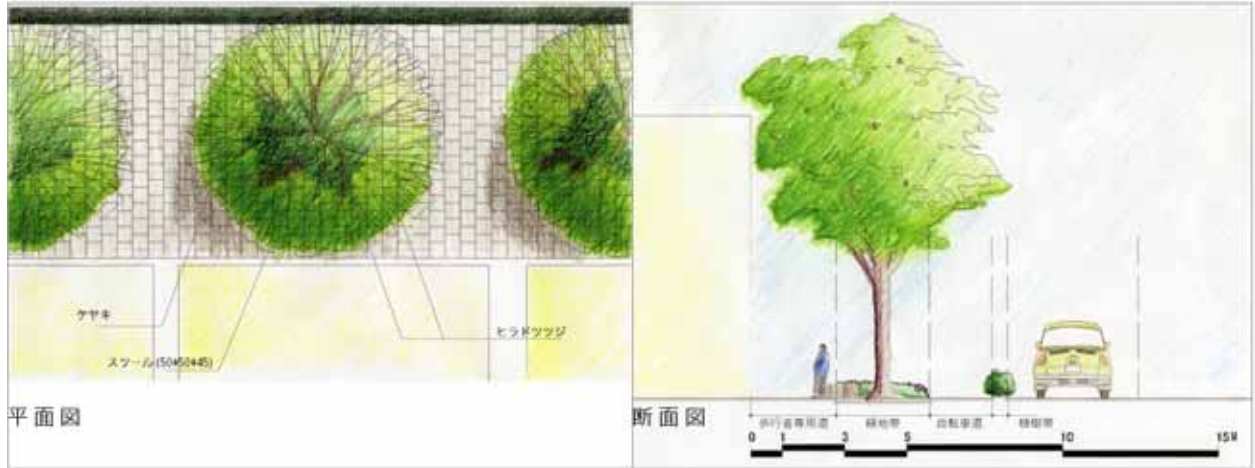
歩道8mのうち、地藏通り側から、歩行者専用(2.5m)、緑地帯(3.5m)、自転車道(2m)、植樹帯(0.5m)とする。

緑地帯については、①通常植栽、②通常植栽+スツール、③高岩寺前植栽とする。①と②については交互用い、③については高岩寺前に用いる。

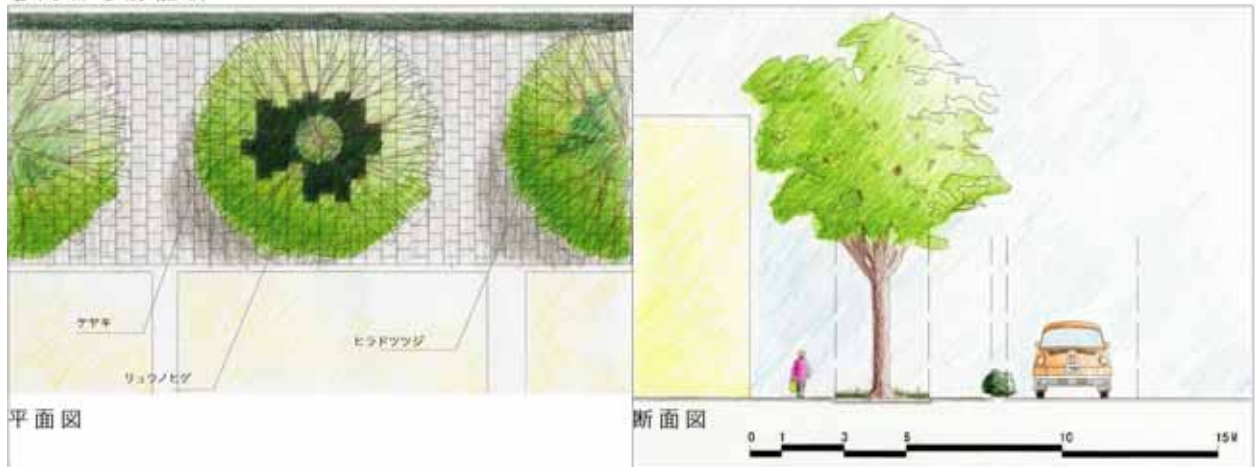
① 通常植栽



② 通常植栽+スツール



③ 高岩寺前植栽



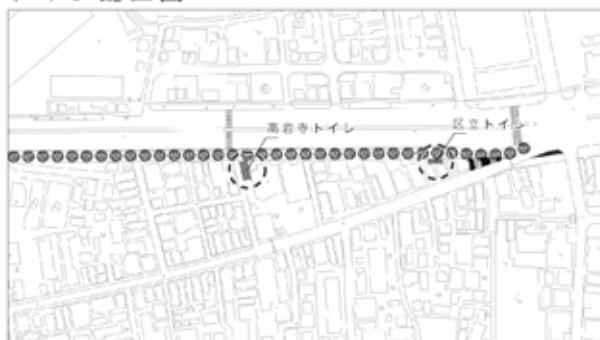
## 2-h) バス停 & 身障者用駐車場整備

バス停と身障者用駐車場は商店街入り口から来訪者を招き入れるために、入り口広場に設ける。

## 2-i) トイレ整備

年配の方が多い巣鴨において、トイレは重要となってくる。高岩寺設置のトイレは高岩寺境内の歩道上に整備する。また、公共のトイレは、誰もがわかりやすいように入り口付近のバス停前に配置する。

トイレ配置図



## 2-j) 横断歩道整備

現在ある歩道橋は道路拡幅により撤去されるため、新たな横断施設が必要となってくる。歩道橋は上り下りが困難であることを考慮して横断歩道にし、バスを乗り降りする地藏通り入り口交差点付近に設ける。

## KAMO' z (カモズ)

代表：伏見拓也(千葉大学大学院M2)

児玉治彦(千葉大学大学院M1)  
中村理子( // M1)  
石井真由美(千葉大学4年)  
大岸祿弥( // 2年)  
大野暁彦( // 2年)  
竹内沙也香( // 2年)